# 【近世都市の先駆け~六角・信長・秀次の城と城下の歴史文化】

#### 織田信長と安土城

#### 1) 概要

永禄11年(1568)**織田信長**の侵攻により観音寺城が落城すると、数百年に及ぶ六角氏支配から織田支配に変わりました。信長は元亀元年(1570)に常楽寺に滞在すると、天正4年(1576)より**安土城**の築城に着手します。築城にあたっては、畿内・東海・北陸から多くの人夫が徴発され、3年後の天正7年(1579)に天主が完成して信長が移り住み、信長の居城としての安土城は完成しました。天主は安土山の山頂に建設され、八角の五層構造であったと『信長公記』などに記録されており、安土城は当代最高の技術を持った職人たちによる、天下統一の拠点となるべく当時の文化、技術の粋を集めたものでした。

天正 10 年 (1582) の本能寺の変による信長の死後、天主・本丸は焼失してしまいます。発掘調査からは、天主・本丸を含む主郭部より焼け残った柱の部材や壁跡が発見され、炎上の様子を生々しく伝えるとともに、城内の建物について貴重な情報を提供しています。また、多数出土した遺物の中には、織田一族の城に使用された**金箔瓦**などがあります。

安土城跡は大正 15 年 (1926) に史蹟に、昭和 27 年 (1952) には特別史跡に指定され、天主跡をはじめとする**主郭部**や多数の**郭跡**、伝羽柴秀吉邸跡や伝前田利家邸跡などの**屋敷群跡、登城道** (大手道、百々橋口道、搦手道等)、山裾部の**石垣や内堀跡**などの遺構が保存されています。

**摠見寺**は、安土城築城に伴い、信長により城内に建立された寺院で、信長亡き後もその菩提を用いながら、現在に至るまで城跡を守り続けています。境内は伽藍跡とともに、室町時代の建物(移築)である**三重塔**及び**二王門**が遺存しており、また、什物の中には、**鉄鐸**や**陣羽織**、信長の一周忌の際に寄進されたとされる**絹本著色織田信長像**、信長没後 100 年後に描かれた**安土城古図**などの織田信長に関連する資産が多数守り継がれています。

安土城下町は、現在の近江八幡市安土町下豊浦、上豊浦、常楽寺、慈恩寺、小中周辺に比定されます。この一帯は、中世以前には豊浦庄があったとされる場所で、城下町の成立にあたって、これら豊浦荘の集落及び**豊浦湊**、また、佐々木荘と常楽寺や**常楽寺湊**など一帯の集落や湊を取り込んでいったことが、信長公記の記述などからうかがえます。

信長は安土城下町に対して、13 か条の掟書(安土山下町中掟書)を出し、楽市楽座をはじめとした都市政策を実施します。それは、城下町を安全と自由が保障された場所とすることで、人々の集住を促そうというものでした。その他城下には、信長が整備し掟書にその通行を定めた下街道(朝鮮人街道)、信長が好んだ相撲(常楽寺相撲)にまつわる伝承が残る東家、キリスト教宣教師たちに屋敷を与え、わが国初のキリシタン神学校とした安土セミナリヨ跡(推定地)、江戸時代の絵図に描かれた 整構工手跡 (推定地)など、往時の城下町の姿を偲ばせる資産や地割、地名が至るところに残されています。

当地に残る織田信長ゆかりの社寺として、摠見寺のほか、信長が建立した**浄厳院**があります。 浄厳院は、六角氏の菩提寺とされる慈恩寺の跡地を利用し、境内には当時の**楼門**(慈恩寺の遺 構)及び**本堂**(興隆寺(現多賀町)から移築)が現存するほか、信長に関連する什物として、**織** 田信長朱印状が伝えられています。また、浄土宗と法華宗との間で行われた安土宗論の舞台となったことでも有名です。その他、信長が安土城築城安全を祈願して参籠したことが伝えられる 活津 彦根 神社 、信長が家臣柴田家久(勝家の一族)に命じて本殿を造営したと伝えられる 製石神社 などが挙げられます。

#### 2) 構成歷史文化資産

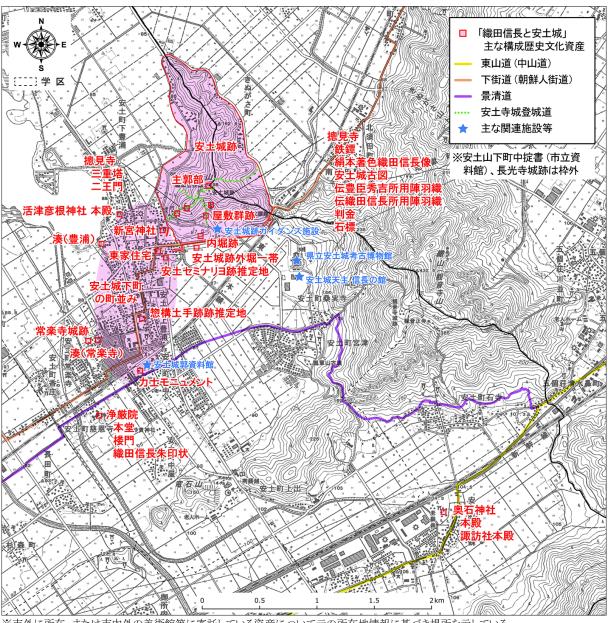
	種別	名称	類型
1	記念物(特別)	安土城跡(主郭部、郭跡、屋敷群跡、石垣跡、内堀跡等)	国指定文化財
2	有形文化財	安土城跡出土品(金箔瓦、金箔鯱、陶器類)	未指定
3	有形文化財	浄厳院 本堂・楼門	国指定文化財
4	有形文化財	摠見寺 三重塔、二王門	国指定文化財
5	有形文化財	奥石神社 本殿、諏訪社本殿	国指定文化財
6	有形文化財	活津彦根神社 本殿	市指定文化財
7	有形文化財	安土山下町中掟書 附 八幡山下町中掟書	国指定文化財
8	有形文化財	摠見寺 鉄鐔※	国指定文化財
9	有形文化財	浄厳院 織田信長朱印状※	県指定文化財
10	有形文化財	摠見寺 絹本著色織田信長像**	市指定文化財
11	有形文化財	摠見寺 安土城古図**	市指定文化財
12	有形文化財	摠見寺 伝豊臣秀吉所用陣羽織**	市指定文化財
13	有形文化財	摠見寺 伝織田信長所用陣羽織**	市指定文化財
14	有形文化財	摠見寺 判金**	市指定文化財
15	民俗文化財	摠見寺 石標	市指定文化財
16	有形文化財	東家住宅 主屋、土蔵、石垣	国登録文化財
17	記念物	安土城跡 外堀一帯	未指定
18	記念物	常楽寺城(木村城)跡	未指定
19	記念物	長光寺城(瓶割山城)等	未指定
20	記念物	安土セミナリヨ跡推定地	未指定
21	記念物	惣構土手跡推定地	未指定
22	その他人文	湊(常楽寺、豊浦)	未指定
23	その他人文	安土城登城道	未指定
		(大手道、百々橋及び百々橋口道、七曲道、搦手道)	
24	その他人文	街道(下街道(朝鮮人街道)、景清道)	未指定
25	その他人文	安土城下町の町並み(地割、地名等)	未指定
26	その他人文	ゆかりの社寺 (摠見寺、浄厳院、活津彦根神社、奥石神社等)	未指定
27	その他人文	常楽寺相撲(近代相撲の発祥)ゆかりの地(常楽寺湊、東家、 新宮神社、安土駅南口広場力士モニュメント、長田の力士塚等)	未指定

その他…上記以外の埋蔵文化財包蔵地(安土城跡遺跡、安土城下町遺跡)遺構及び出土品、上記以外の遺跡・遺構 (伝善住坊屋敷跡、波多野ヒデハル公墓等)、安土城・織田信長関連文書(摠見寺文書、沙沙貴神社文書、 東南寺文書等)、上記以外の摠見寺及び浄厳院に関する資産、街道に関する資産(道標、常夜灯、町石等)、 言い伝え・伝承(浄厳院安土問答及びカチドキ念仏、亀川論争、千石岩、蛇石、梅の川、お鍋の松)等 ※市外に所在、または市内外の美術館等に寄託している資産

## 3) 保存・活用の核となる関連施設等

県立安土城考古博物館(安土)、安土城天主信長の館(安土)、安土城郭資料館(安土) 安土城跡ガイダンス施設(安土)など

## 「織田信長と安土城」主な構成歴史文化資産等の分布



※市外に所在、または市内外の美術館等に寄託している資産について元の所在地情報に基づき場所を示している

